

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語】

1. 対象(実施を想定する学校・児童生徒の実態の概要) 1年生

中学入学後、生徒は『竜』(文学的作品)を読んだ。授業の中で、登場人物の相関図を作成した時や物語の展開を学ぶ時に心情を示すような言葉の変化に気付けないことや、話の展開を部分ではとらえられるが全体でとらえることの経験の少ないことが気になった。また、互いの考えを伝え合うときに自分の考えを言葉にできずもどかしい思いをしている生徒が多かった。そのため、指導事項を知識及び技能では「事象や行為、心情を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。」、思考力、判断力、表現力等では「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。」とした授業を構想した。

2. 単元名「私の作品論を聞いてみて～文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして自分の考えを語ろう～」(全9時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	事象や行為、心情を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。((1)ウ)
思考力、判断力、表現力等	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(C(1)エ)
学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

4. 本時の目標

グループのメンバーに自分の考える『空中ブランコ乗りのキキ』の作品論を語り合うことを通して、より相手に作品の魅力が伝わるような作品論にまとめることができる。

5. 授業展開【本時・単元】

解決したい課題や問い

相手が納得するような考えにできているか検証しよう。

考えるための材料

- ①スライド
- ②観点カード(観点:①なぜ②どこ③私もそう思う。なぜなら)

想定される活動

- ①【話す側】
話をするとき、資料を示すことによって話の筋が通りやすくなる。
【聞く側】
形となって示されているため、ただ聞く時よりも聞きやすくなる。
- ②発表を聞く時のポイントが絞られているため、聞いたことを考えやすくなる。
観点の裏に質問例が書かれているため、作品論を聞いた後に質問をしやすくなる。

対話と思考(対話を通じた協働的な問題解決のプロセス)

- ・ 観点をもって語り合うことによって、目的(魅力が感じられるか)を明確にして話し合いができるようにする。
(観点:①なぜ②どこ③私もそう思う。なぜなら)
- ・ 語り合うイメージがつくようにモデルグループを参観した後に検証する。

【魅力は「登場人物の個性が強いことだ」と考える生徒】

作品の魅力は、登場人物の個性が強いことだと思います。主人公のキキが命をとるか人気をとるかという極端な考えをもった人物で、さらにそれをやんわり止めながら促しお金に固執している団長、やんわり止めながらキキの動向に目を離さないロロ、唯一本気で止めつつキキに四回宙返りをする決断をさせてしまうおばあさん。そこに読者はおもしろさを感じる事がこの作品の魅力だと思う。

【観点をもとに検証していた生徒】

共感できた。だけど、ロロの魅力がいまいち伝わらないかもしれない。だから、休日なのにキキの練習を見に来る場面でのロロの怖さを伝えた方がもっとロロの個性を伝えられるかも。

僕も登場人物に魅力があると思ったんだけど、それぞれの関係も必要じゃない？キキはそれぞれの言葉を聞くことで心が揺れて、読者がキキに同調していくわけだから。

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

登場人物に魅力があると思ったことをグループの人に共感してもらえた。その中で、もっと納得してもらうためには、本文の場面を引用したり、相関図を利用したりした方がいいことをアドバイスしてもらえた。だから、スライドには、それを付け加えたい。